

会議録

会議名 (審議会等名)	第5期第10回相模原市南区区民会議		
事務局 (担当課)	南区役所区政策課 電話042-749-2134(直通)		
開催日時	令和2年7月17日(金) 14時00分～15時36分		
開催場所	南区合同庁舎3階 講堂		
出席者	委員	18人(別紙のとおり)	
	その他		
	事務局	13人(南区長、副区長、他11人)	
公開の可否	可	不可	一部不可
	傍聴者数	0人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 会議の公開について</p> <p>3 報告 (1) 南区誕生10周年記念事業について</p> <p>4 議題 (1) 第5期南区区民会議の活動報告について (2) 令和2年度区別基本計画推進事業(案)について</p> <p>5 その他 (1) 委員あいさつ (2) その他</p> <p>6 閉会</p>		

審議経過

主な内容は、次のとおり。(は会長、 は委員、 は事務局等の発言)

1 開会

事務局から、4月の人事異動に係る職員の紹介があった。

その後、事務局職員を代表して、菅谷区長からあいさつがあった。

2 会議の公開について

傍聴希望者なし

松下会長のあいさつの後、議事が進められた。

3 報告

(1) 南区誕生10周年記念事業について

資料に基づき事務局から報告。

ロゴマークのデザインをした方は若プロのメンバーであり、こういうところでの活躍は就職のときにも有利になる。そういう後押しや応援が若者を支えていくうえで大事である。

4 議題

(1) 第5期南区区民会議の活動報告について

資料に基づき事務局から説明。

高校生アンケートに、これだけの学校が集まり、約1,000人の回答があったのは貴重である。問題は集まったアンケートを来期に向けて、どのように活用していくかという点ではないか。

川崎市などでは、地域の伝統産業の従事者が学校に来て、話をするという仕組みがある。全校集会や、終業式、入学式、文化祭、総合的な学習の時間、進路説明会などの際に南区でブースを設けることや、話をするための時間を取れば、啓発活動になると思う。

高校生は、すごく考えているし、パワーがある。南区の高校生は、約半数が区外在住者のはずだが、こうした若者たちをどう育てていくか、このアンケートで多少分かると思われ

る。そういう意味でも、このアンケートの活用、具現化を期待させていただきたい。

いつも言っているように、やりっ放しが一番いけない。せっかくの素材、資源なので、これを生かすことが大事である。この区民会議では、政策提案をずっと行ってきた。提案を具体化するために実践していくことが、一つの南区の文化であると思っている。

(2) 令和2年度区別基本計画推進事業(案)について

資料に基づき事務局から説明。

マッチングの仕組みを作り、若い人たちがお祭りに行くという仕組みを作ったものの、今年は実践ができないため、それをどう継続していくか、コロナの状況を見ながらやっていくことがポイントになると思われる。

5 その他

(1) 委員あいさつ

第5期南区区民会議の終了にあたり、出席委員からあいさつがあった。

自治会活動の今後の進め方が問題だと考えている。東日本大震災の後には、絆という文字が至るところにあった。人と人の関係を密につなげていこう、人間関係が大事であるという部分が大きかったが、コロナが発生してから、人と人が付き合っはいけないような風潮になっている。Withコロナ、新しい生活様式と言われても、自治会は人と人の関係が基で成り立っているの、そこを希薄にするということは非常に難しい。

友人がフェイスブックに写真を載せており、それが、木もれびの森を散歩した際に、女子美術大学の生徒が作成した看板が非常によいということで、その案内板を写真として載せていた。それを見ながら、アイデアコンペで提案があって制作したものだということ思い出したが、やはり少し、区民会議の宣伝が足りないのではないかとも思った。

まちづくり会議の新しいメンバーには「まちづくりのトリセツ」が手元にない。時間がたてばたつほど、区民会議でどういう協議をして作成したかという過程も含めて、説明することが難しくなっていく。アイデアコンペで実行に移して効果が上がっているものや、区民会議で取り組んだものを、分かりやすい格好で、それぞれの出身母体に知らせられるような仕組みを考えてもらいたい。

コロナの影響で、何もできなくなった時間があり、自治会活動や地域活動を考える時間をもらった。自治会の活動は、3密を避けることと全く真逆のことを一生懸命、何年もやってきたものである。既に、子どもたちに対しては学習支援を始めたりしているが、やはり住民からは様々な相談があり、それに対して地道に活動してはいるが、改めて、自治会とは何だろうかと考えている。

昨年、相模女子大学の生徒が主催した、他府県の若者参画に関する発表会に発表者として参加した際に、若者が、いろいろなことをすごく上手にこなしていると感じた。

ボランティアなどに若い人が出てきてくれないことが非常に残念だと思っている。高齢者が頑張っているまちなってしまったと、身をもって感じている。

南区で福祉事業を行っており、ゼロ歳児から100歳を超えたお年寄りまでを対象にしているが、そこで常に感じるのは世代間交流というテーマである。保育園から子どもたちが老人ホームに来て、歌やダンスを披露すると、お年寄りは非常に喜ぶ。子供たちは、喜んでお年寄りの姿を見て、思いやりや優しさが育っていく。こういう関係が世代間交流の中にあると思っている。最終的に人間は人と人が触れ合うことが大事だということで、この会議でもそういった方向で、これから展開していければよいと思っている。

東日本大震災のときは、非常に大きな災害ではあったが、その後は、みんなで復興していきこうと、チャリティーコンサートや、誰もが歌える歌が作られるなど、文化の力が非常に認められた時代だった。今では、劇場に来ることも危ないと言われ、残念に思っている。区民会議に参加して、若い人を取り込んでいくことは、どこでも、今、課題になっていると感じた。

無作為抽出型区民討議会の運営委員になった際、若プロのメンバーに交じって内容を検討していた時間が、日々の生活の中ではあり得ないことであり、学生の中に自分が混じっているということが非常に刺激的であった。

一般の市民として毎日過ごしていると、自分の住むまちづくりのことを他人ごとのように感じながら毎日が過ぎていくように思う。区民会議のような場に参加することで、この相模原の地に何かしら役に立ちたいという気持ちが蘇ってくる。一般の方の意見や、市民の意識が変革できるような機会として、区民会議が続くことを祈念している。

一通り感想をいただいた。皆さんが言うように、東日本大震災から、まちづくりは大きく変わった。それと歩みを同じようにしながら区民会議も進んできて、人とのつながりを大事にしていこうというふうにしてきた。リモートでは、人の気持ちは全部、伝わらない。人と人が会って目を見たり、話し声を聞いたり、笑ったりすることが不可欠である。これからは、そのための新しい方式を探していかなければならない。

実際、静岡県の焼津市では、市民まちづくり集会といって、議員、市長、職員、市民も参加して、年一回、まちのことについて話すという取組を行っている。一度に170人ぐらい参加する催しであり、これまで5回程度はやってきた。先日、この催しについて会議を行い、とにかくこれは文化だから、170人は集められないが、40人でもいいので、つながりを作っていくため、今年も実施することが決まった。リスクもあるが、リスクなしでは何もできない。十分に様々なことに配慮しながらではあるが、やはり、人が人と付き合っていくということを大事にしていきたい。

6期以降、今まで紡いできた文化をどうつないでいくかが大事なことだと思う。いくら時代が変わっても、人と人のつながりはなくならないし、なくなったら人ではないというふうに思っている。時代が変わり、環境が変われば、また変わっていくものもあるので、そういったことを見つけていくことが大事だと改めて思う。皆さんのお話をうまく6期につないでいただきたいというふうに思っている。

(2)その他

事務局から「さがみはら39(サンキュー)キャッシュバックキャンペーン」について情報提供があった。

6 閉会

松下会長、坂本副会長のあいさつのあと、閉会。

相模原市南区区民会議委員名簿

(順不同・敬称略)

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	森 逸雄	大野中地区まちづくり会議会長		欠席
2	大木 恵	大野南地区まちづくり会議会長		出席
3	中島 勝平	麻溝地区まちづくり会議会長		出席
4	穂苅 健二	新磯地区まちづくり会議会長		出席
5	篠塚 実希子	相模台地区まちづくり会議副会長		出席
6	瀬尾 守一	相武台地区まちづくり会議会長		出席
7	古木 昇	東林地区まちづくり会議会長		欠席
8	鈴木 貴市	相模原南交通安全協会会長		出席
9	佐田 昌史	相模原市民生委員児童委員協議会常任理事		出席
10	草薙 喜義	相模原市社会福祉法人経営者協議会会長		出席
11	中島 千尋	相模原市地区社会福祉協議会南区連絡会		出席
12	古田 政子	子育て親育ち応援団 With.cfc 副代表		出席
13	杉本 祥一	相模原商工会議所常議員		欠席
14	九嶋 俊彦	相模原青年会議所常任理事		出席
15	井部 弥生	相模原市民文化財団総務課長		出席
16	坂本 堯則	相模原市自治会連合会会長	副会長	出席
17	松下 啓一	相模女子大学夢をかなえるセンター エグゼクティブアドバイザー	会長	出席
18	飯村 和道	女子美術大学芸術学部名誉教授		欠席
19	田中 美加	北里大学看護学部教授		欠席
20	安藤 晴敏	公募委員		出席
21	原田 征士	公募委員		出席
22	横山 真琴	公募委員		出席
23	金森 巖	相模原・町田大学地域コンソーシアム業務部部長補佐 市民・大学交流センター所長		欠席
24	大坂 里智	南区若者参加プロジェクト実行委員会		出席
25	牧野 里咲	ジェイコムイースト相模原・大和局		欠席